

ほほえみ通信

第36号

平成27年

7月発行

グループホームくりの

始良郡湧水町米永181-1

基本理念

このホームが あなたにとって
最高の我が家となりますように
私たちがあなたにとって
真の家族となれますように

活動目標

今日も一日 笑顔で
ありがたい心が通い合う
地域社会の人々と共に
楽しい暮らしを目指します

誕生日 おめでとうございます

5月誕生日



二宮 サダ子様 (86歳) 伊地知 敦子様 (96歳)



スタッフの一言

グループホームオープン当初よりスタッフの一員として働かせて頂いております。後数ヶ月でホームも10周年を迎えます。私自身も両親を看取っており、自分の父母と重なりながら、お父様お母様とお話をさせて頂く中でいろいろな事に気付かされます。「戦争時には爆音に驚かされて生きた心地はしなかったし、戦後は食べる物も無く、着る物はボロボロの服を着ていました。周りの人みんなでした。特に食べ物でひもじい思いをした事は今でも覚えていますよ。今の子ども達は幸せですね。」と時折、昔を思い出されてはお話をして下さいます。大変な時代を生き抜いて来られたのだと思いますと感無量になります。そのご苦勞に共感しながら、これからもいつまでもご健康で安心して楽しくお過ごし頂き、沢山の笑顔を見せて頂きます様、居心地の良いホーム作りを目指して頑張っていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。

林 京子

安心感を提供出来る介護サービスを！

「年は取りたくない」と誰もが思います。しかし、人間は加齢と共に、心身・収入・親・兄弟など自分を取り巻く環境はがらっと変化します。それでも老いを受容しながら、若さを保つ為、体力を維持する為にスポーツをしたり、若い世代と交流したりしながら年を重ねていきます。母親に抱かれてお乳を飲んでる子供は安心感で一杯です。その安心感の原点は母親の持つ絶対的な優しさだと思えます。人は皆、安心感を求めて生きています。私達が家でリラックス出来るのは家族という構造に自分が守られている実感があるからです。

「人は一人では生きていけない」とよく言われます。加齢と共に誰かにかまってもらえないと不安感が高まります。誰かと一緒にいる事で安心感を体感出来ると思えます。介護を受ける人にとって一番大切な感情は安心感だと思えます。私達に出来る事は側にいて積極的に話を聴いて差し上げる事です。少しでも入居者様の気持ちに近づき、安心感を提供出来る介護を微力ながらお手伝いさせて頂きたいと思えます。

稲本 美津子

栗野中学校 福祉体験(1年生)



昼食のカレー作りや七夕作り、レクリエーションで楽しい時間を過ごす事が出来ました。また、中学生に戦争時代の話などをして下さる入居者様もしらっしゃり、中学生にとって、とても貴重な体験になった事でしょう。

ドライブ

社長宅でお茶会です。



みごうか花やな~

ミニ交流会

ワークショップゆうすいの方々が来て下さり、ハンドベルやダンスをして下さいました。肩たたきが一番嬉しかったです。



おはき、オレンジ、大学いも、コーヒーゼリー

若い男の子といると老がえるわ!!



これはビビりにはまるかな??



美味しいうらやま、外で食べる



お昼寝です。

こいのぼり見学



毎年、恒例ガラッパ公園に行ってきました。天気にも恵まれ、手作りお弁当を美味しく頂きました。

くりの図書館へ行って来ました。



社長宅へさくらんぼを採りに行きました。たくさん採れたので、ジャムにしてヨーグルトと食べました。

